

特定外来生物の 拡大を防ぐために



特定外来生物とは…？

もともとその地域にいなかったのに、人間活動によって、他の地域からもちこまれた生物（外来生物）のうち、地域の自然環境に大きな影響を与えたり、農作物に被害を与えたりするものを法律※により『特定外来生物』として指定しています。

特定外来生物は、被害を防ぐため、飼養・栽培・保管・運搬・譲渡等は原則禁止されています。

※特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）



アライグマ



カミツキガメ



オオクチバス



アレチウリ



オオキンケイギク



オオハongoンソウ

私たちにできること

外来生物の中には、繁殖力が強く、あっという間に増えてしまう種類があり、いったん広がってしまった外来生物を駆除するには、たくさんの労力や時間、またお金もかかります。

このため、外来生物を「入れない、捨てない、拡げない」の3原則を守ることが重要です。

外来生物被害予防三原則

- 1 **入れない** ～悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに入れない
- 2 **捨てない** ～飼っている外来生物を自然のなかに捨てない
- 3 **拡げない** ～自然のなかにいる外来生物は他の地域に拡げない

特定外来生物（105 種）のうち、長野県内では以下の 18 種が確認されています。

（2013 年 3 月 現在）

哺乳類	アライグマ、アメリカミンク	甲殻類	ウチダザリガニ
鳥 類	ガビチョウ、ソウシチョウ、カオグロガビチョウ	昆虫類	セイヨウオオマルハナバチ
爬虫類	カミツキガメ	植 物	オオキンケイギク、オオハongoンソウ、 オオカワデシャ、アレチウリ、 アゾラ・クリスタータ
両生類	ウシガエル		
魚 類	カダヤシ、ブルーギル、コクチバス、 オオクチバス		

長野県

どんな問題がおきているの？

外来生物はどのような問題を起こしているのでしょうか？

生態系への影響

地域の生態系は、長い歴史をへてそれぞれの場所に合った自然のバランスにより成り立っています。そこに外来生物が侵入すると、捕食や交雑等によって、在来の生き物の減少や絶滅、地域の植生等のバランスがくずれるなどの影響があります。



ウチダザリガニ



アレチウリ



オオカワヂシャ

農林水産業への影響

外来生物のなかには、生態系だけではなく、畑の野菜や果物を食べたり、漁業の対象となる生き物を捕食したりして、人々に迷惑をかけるものもあります。



アメリカミンク



ブラックバス（コクチバス）



ブルーギル

外来生物法により、生きたままの運搬、飼育、放流等は禁じられています。
再放流（リリース）も禁止です。（再放流禁止は長野県内水面漁場管理委員会指示による。野尻湖のブラックバス類を除く）



人の生命・身体への影響

かまれたり、毒を持っているものに刺されたりする危険や花粉症の原因となることがあります。



カミツキガメ

写真は未成熟の個体であり、成熟すると白い斑紋は消えます



毒をもつ雌の体長は、約 0.7～1 cm

長野県内では未確認（2013 年 1 月現在）ですが、近県で確認されています。

セアカゴケグモ

特定外来生物は…

【環境省パンフレットより転記】



飼育・栽培



運搬



保管



輸入



野外に
放つ・植える・蒔く



許可を持っていない者に
譲渡・引渡

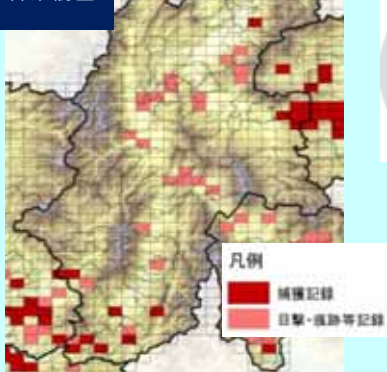
が原則禁止されています。 ※以上の項目に違反した場合、最高で個人の場合は3年以下の懲役もしくは、300万円以下の罰金が科されます。法人の場合は1億円以下です。

生息拡大が危惧されている特定外来生物

アライグマ



環境省
各県調査



長野県におけるアライグマの生息状況(2012)



アライグマは過去のテレビアニメの影響等からペットとして国内に持ち込まれましたが、飼育が難しいなどの理由で野外に放たれたものが野生化し、各地で問題となっています。雑食で繁殖力も強く、次のような問題が起きています。



ウチダザリガニ



見分けポイント

“はさみ”の模様

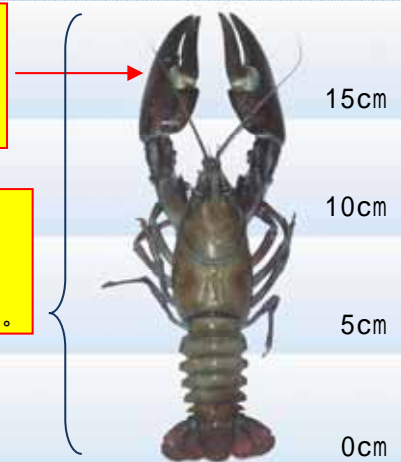
ウチダザリガニにははさみの付け根部分に白い模様がある。

見分けポイント

“成体(大人)”の大きさ

ウチダザリガニは15cm以上になることもある。

北アメリカ原産。体長が15cmを超える大型のザリガニで、ハサミ部分に白い模様が見られます。繁殖能力が強く、魚類、底生生物、水草などの捕食や水草を切断し減少させる等の被害があります。ヨーロッパでは高級食材として食べられています。



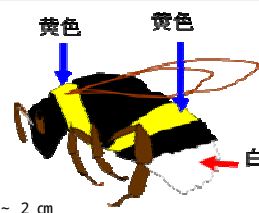
セイヨウオオマルハナバチ

て、決められた野外逸出防止対策をとった施設内での適切な管理のもとで飼育されています。2012年までの時点で、長野県下において野生化した個体群は確認されていませんが、野生化が進むと高山や高原のお花畑にも影響が及ぶおそれがあります。生態系への被害として在来種のマルハナバチを圧迫する、寄生生物をもちこむ、植物の正常な受粉をさまたげるなどのおそれがあります。



セイヨウオオマルハナバチ

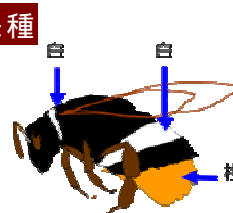
外来種



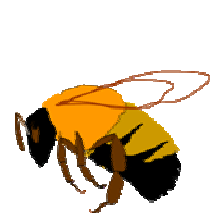
体長1~2cm

セイヨウオオマルハナバチ

在来種



オオマルハナバチ



トラマルハナバチ

生育が拡大しており、駆除についてご協力をお願いする特定外来生物



オオキンケイギク



オオハンゴンソウ



オオカワヂシャ

過去に園芸用や緑化用に流通した経過があり、河川敷や道路に大群落をつくっています。

繁茂した地域では在来植生への影響が懸念されています。
過去に園芸種としてルドベキア、ハナガサギクという名で流通しました。

在来種のカワヂシャ(準絶滅危惧種)と交配して雑種を形成するため、遺伝的かく乱を生じています。

これらの植物の駆除方法は抜き取りが効果的です。

特定外来生物において該当する範囲は、原則として生きている「個体」を指します。
除草等により「茎」と「根」が分断された状態になると、「個体」ではなく「器官」に相当します。
一部の植物の「器官」については、下表のように法の適用範囲に指定されている場合と、指定されていない場合がありますのでご注意ください。

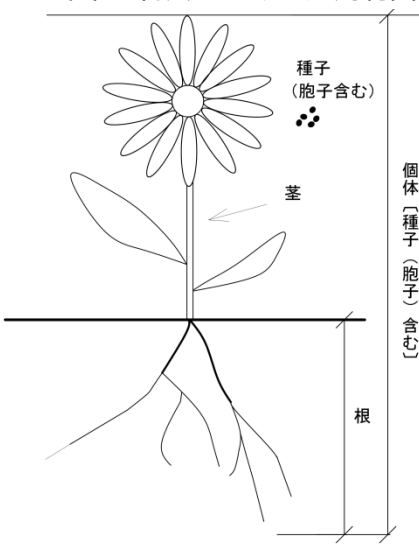
- 法の適用外となる器官の例
(いずれも種子の付いていない状態のもの)
切花状態のオオキンケイギク, オオハンゴンソウ, オオカワヂシャ
アレチウリの引き抜いた個体

表 外来生物法の適用範囲

種名	形態	種子等	根	茎
オオキンケイギク	多年生草本	適用	適用	-
オオハンゴンソウ	多年生草本	適用	適用	-
オオカワヂシャ	一年～多年生草本	適用	適用	-
アレチウリ	一年生草本	適用	-	-

- : 外来生物法の対象外

(参考イメージ)
外来生物法における適用範囲



【目撃情報シート】 早期発見が必要な次の特定外来生物を目撃した場合は情報提供をお願いします。(写真もあればお送りください)
(メール送信先) 長野県 環境部 自然保護課メールアドレス shizenhogo@pref.nagano.lg.jp (FAX 送信先) 026-235-7498

目撃種	アライグマ	ウチダザリガニ	セイヨウオオマルハナバチ	をしてください
記入者氏名				
記入者連絡先(電話番号など)				
目撃した日時(時刻 又は 夕方等もご記入ください)	年	月	日	
場所(なるべく具体的にご記入ください)	市 町村			
状況等	(アライグマのシマシマの尻尾を見た、白い腹をもったセイヨウオオマルハナバチを の花で確認したなど。また分かれば目撃数も教えてください)			

生育が拡大しており、駆除についてご協力をお願いする特定外来生物

アレチウリを駆除しましょう！



繁茂しているアレチウリ



アレチウリの芽生え



花の咲いているアレチウリ

アレチウリは、その場所にもともと生えていた植物に覆い被さって枯らしたり、弱らせたりしてしまいます。そうすると、その植物を利用している昆虫や動物などにも影響が出る可能性があります。

クズの葉



見分け方

- ・アレチウリには白毛やトゲが多いが、クズには茶褐色の毛がつく。
- ・クズの葉は、3小葉からなる。



アレチウリの果実のかたまり

アレチウリとは

北米原産。ウリ科の一年生草本。生育速度が非常に速いつる性植物で、長いものでは10m以上にもなります。果実には硬いトゲをつけます。

アレチウリの一生

アレチウリは、5月頃から10月頃まで芽生えの時期があります。花は、8月下旬頃から咲き始め、10月まで続きます。9月下旬には果実が熟し始め、種子をつけ、冬には枯れてしまいます。種子のほとんどが、翌年に発芽しますが、土の中に眠っていて翌々年以降発芽する種子もあります。

アレチウリの駆除(抜き取り)のポイント

種子をつける前に抜き取る。
できるだけ小さいうちに抜き取る。
1年に数回抜き取る。(6月中旬、7月下旬、9月上旬など)
アレチウリが現れなくなるまで数年間続ける。

7月の最後の日曜日は「アレチウリ駆除全県統一行動日」です。

要注意外来生物について

外来生物法に基づく規制対象ではありませんが、生態系等に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる方に適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。(全国で 148 種類選定 (2009 年 2 月現在))

また、被害に係る科学的な知見や情報が不足しているものも多く、専門家等による知見等の集積や提供を期待するものです。これらの外来生物は、その特性から大きく以下の 4 つに区分されています。

1 被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物 (現在 16 種類指定)

生態系等に対する被害があるかそのおそれがあるとされ、指定に伴う大量遺棄のおそれなどの生物ごとの様々な課題があることから、現時点で外来生物法に基づく特定外来生物等の指定対象となっていない外来生物。

(植物) オオカナダモ、ホテイアオイ、セイタカアワダチソウ、オオバクサ 等

(動物) ミシシippアカミミガメ、カワマス、ブラントラウト、ニジマス、グッピー 等

ミシシippアカミミガメ



2 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物 (現在 116 種類指定)

生態系等に対する被害のおそれ等が指摘されているが、文献等の被害に関する科学的な知見が不足している外来生物。引き続き情報の集積に努め、利用に当たっての注意を呼びかけていく必要があるとされている。

(植物) オオサンショウモ、チョウセンアサガオ属、ハルジオン、オオアワダチソウ、ヒメジョオン、

外来タンポポ種群、ハルザキヤマガラシ、メマツヨイグサ、ヘラオオバコ、バクサ 等

(動物) シマリス、ワニガメ、ソウギョ、クワガタムシ科 等

3 選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物 (他法令の規制対象種) (植物防疫法で規制対象の 4 種類)

他法令による規制があることから、外来生物法に基づく特定外来生物や未判定外来生物の選定の対象とはならないが、特に利用に当たっての注意喚起が必要な外来生物。

(動物) ホソオチョウ、アカボシゴマダラ 等

ホソオチョウ

(左)成虫()、(右)幼虫



4 別途総合的な取組みを進める外来生物 (緑化植物)

緑化に用いられる外来植物は、災害防止のための法面緑化など様々な場所で用いられることから、被害の発生構造の把握と併せて代替的な植物の入手可能性や代替的な緑化手法の検討等を含めて環境省、農林水産省及び国土交通省の 3 省が連携して総合的な取組みについて検討をすすめることとしている。現在、文献等で被害に係る指摘がある緑化植物として 12 種類の緑化植物が選定されている。

イタチハギ、ギンネム、ハリエンジュ、シナダレスズメガヤ 等



(左)イタチハギ (右)ハリエンジュ (ニセアカシア)

(その他) クワガタムシやカブトムシの仲間 (国内産も含めて) は野外に放さないで、最後まで飼育しましょう。

長野県環境部 平成25年(2013年)3月作成

【写真提供 : 環境省 長野県環境保全研究所】

自然保護課 TEL 026-235-7178

水大気環境課 TEL 026-235-7176

FAX 026-235-7498

FAX 026-235-7366

e-mail shizenhogo@pref.nagano.lg.jp

e-mail mizutaiki@pref.nagano.lg.jp

外来生物について詳細は下記HPをご覧ください。

長野県ホームページ 「外来生物について」 <http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/gairai/gairai.htm>

「アレチウリ駆除大作戦」 <http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/mizutaiki/mizu/arechi/top.htm>

環境省ホームページ 「外来生物法」 <http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

複製・転載する場合は長野県の許諾を得てください。